

八日市場市借当川沼田泥炭遺跡

— 公崎堰埋蔵文化財調査報告書 —

平成9年3月

千葉県土木部
財団法人 千葉県文化財センター

よう か いち ば かり あて がわ ぬま た でい たん

八日市場市借当川沼田泥炭遺跡

—公崎堰埋蔵文化財調査報告書—



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第307集として、千葉県土木部八日市場土木事務所の公崎堰建設に伴って実施した八日市場市借当川沼田泥炭遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代中期から晩期の土器や石器が出土するなど、この地域の縄文時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られています。この報告書が、学術資料として、また文化財の保護、普及のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成9年3月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 中村 好成

凡 例

- 1 本書は、千葉県土木部八日市場土木事務所による公崎堰建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県八日市場市加多古字沼田139ほかに所在する借当川沼田泥炭遺跡（遺跡コード214-007）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部八日市場土木事務所の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理事業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は主任技師 高梨俊夫が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県土木部八日市場土木事務所、八日市場市教育委員会、八日市場市立吉田小学校の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
 - 第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「成田」(N1-54-19-10)
「八日市場」(N1-54-19-6)
 - 第2図 八日市場市役所発行 1/2,500都市計画図「八日市場市8」、「八日市場市9」
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

本文目次

I はじめに	1
1 調査の経緯と経過	1
2 遺跡の位置と環境	2
II 調査の概要	5
1 調査方法	5
2 出土遺物	8
III まとめ	19
1 縄文土器	19
2 遺跡環境の変遷	19
報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺関連遺跡分布図	3	第7図 3層・4層・5層(1)出土遺物実測図	11
第2図 遺跡周辺地形図	4	第8図 5層(2)出土遺物実測図	12
第3図 グリッド配置図	5	第9図 5層(3)出土遺物実測図	13
第4図 調査区平面図・断面図	6	第10図 5層(4)出土遺物実測図	14
第5図 土層断面図	7	第11図 5層(5)出土遺物実測図	15
第6図 遺物分布図	9	第12図 5層(6)・6層出土遺物実測図	16

表目次

第1表 周辺縄文時代主要遺跡・ 独木舟出土地一覧	2	第2表 出土遺物一覧(1X2)	17・18
-----------------------------	---	-----------------	-------

図版目次

図版1 遺跡周辺航空写真	図版7 3層出土遺物・4層出土遺物・5層出土遺物(1)
図版2 平成7年度調査前・調査状況	図版8 5層出土遺物(2)
図版3 平成7年度調査状況・土層断面等	図版9 5層出土遺物(3)
図版4 平成8年度調査状況	図版10 5層出土遺物(4)
図版5 平成8年度調査状況	図版11 5層出土遺物(5)
図版6 平成8年度土層断面・遺物出土状況等	図版12 5層出土遺物(6)・6層出土遺物

I はじめに

1 調査の経緯と経過

千葉県土木部八日市場土木事務所は、借当川の河川改良事業として公崎堰建設を計画した。これに伴い、事業地内に所在する埋蔵文化財の有無について、平成6年8月4日付け文書で照会があった。千葉県教育委員会は、八日市場市教育委員会、千葉県八日市場土木事務所と平成6年9月7日に現地踏査を行い、平成6年9月13日文書で全域遺跡有りの回答をした。これを受けて、埋蔵文化財の取扱いについて協議され、その結果、記録保存の措置がとられることとなった。発掘調査は、財団法人千葉県文化財センターが千葉県八日市場土木事務所からの委託を受けて実施することになった。

堰建設に当たっては、借当川を迂回させる必要があることから、発掘調査は平成7年度と平成8年度の2回にわたって実施することになった。平成7年度は、迂回部分の調査を行い、調査終了後、現在の河道をせき止めて借当川を迂回させた。平成8年度は、本体部分の調査を行い、迂回後の河道を含む両岸が調査区となった。

整理作業は、平成7年度分と平成8年度分を一括して報告書の刊行まで行った。各年次の業務内容及び担当者は、以下のとおりである。

平成7年度

〈発掘調査〉

調査範囲：借当川迂回路部分

調査面積：656㎡

調査期間：平成7年11月1日から平成7年11月30日

調査研究部長 西山太郎、東部調査事務所長 石田廣美

担当者：主任技師 大谷弘幸

平成8年度

〈発掘調査〉

調査範囲：公崎堰本体部分

調査面積：1,200㎡

調査期間：平成8年5月1日から平成8年6月28日

調査部長 西山太郎、東部調査事務所長 石田廣美

担当者：主任技師 高梨俊夫

〈整理作業〉

整理対象：平成7年度調査分及び平成8年度調査分

整理期間：平成8年10月1日から平成8年11月29日

調査部長 西山太郎、東部調査事務所長 石田廣美

担当者：主任技師 高梨俊夫

2 遺跡の位置と環境

借当川沼田泥炭遺跡は、千葉県北東部の借当川流域に位置する。借当川は、下総台地を開析し、九十九里平野を経て太平洋に注ぐ栗山川の支流で、幅約600mの西から東へと延びる谷の中央部を流れて栗山川の本流に注いでいる。川幅は約10mで、農業用水として利用されている。この流域の平野部は、標高5m前後の低湿地となっており、ほとんど水田化しているが、所々に湿地が残っている。また、休耕田などにはガマやヨシ等が生育し、地下水位が高く、滞水しやすい、湿性な環境にある。兩岸の台地は標高35m～40mを測り、開析が進み、丘陵状になっている。

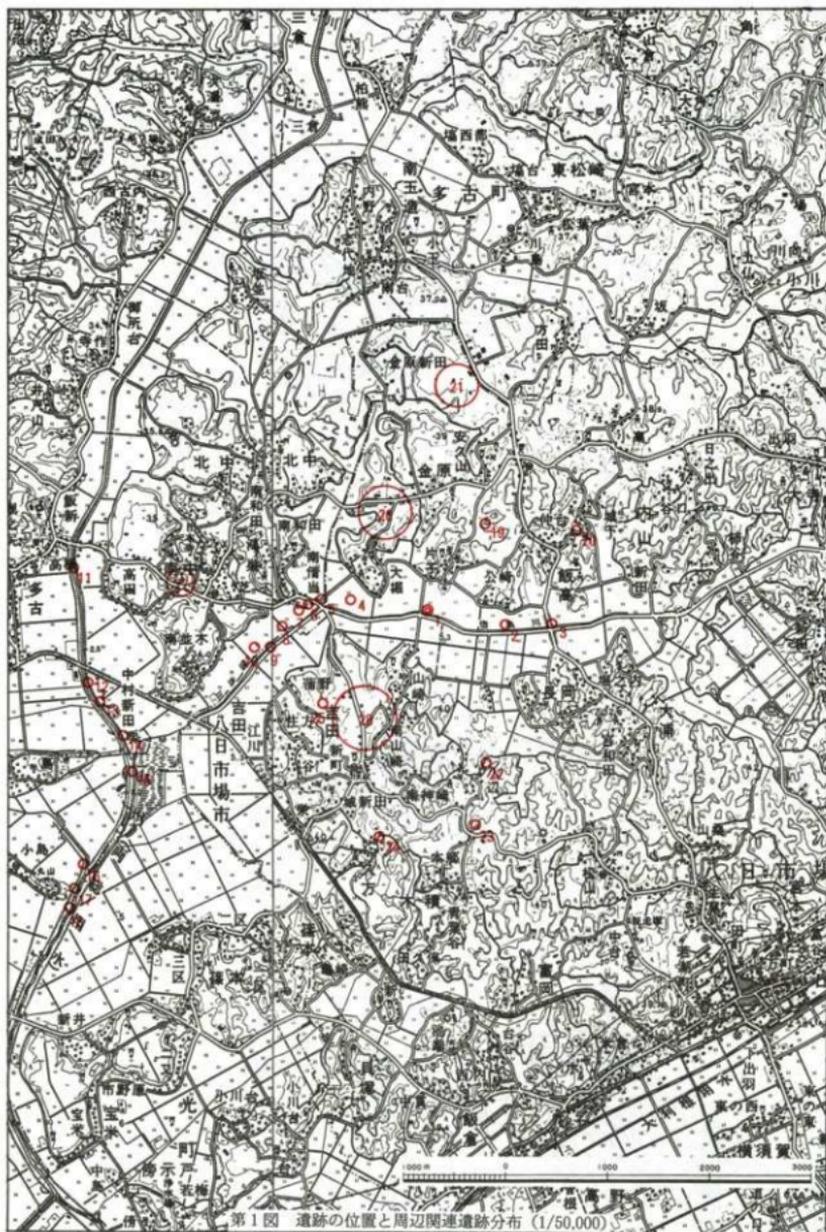
今回調査した地点は、八日市場市片子及び入山崎の兩岸から舌状に延びる台地に挟まれた中間点に当たり、標高約4.5mで、借当川の兩岸及び河道部を含む。

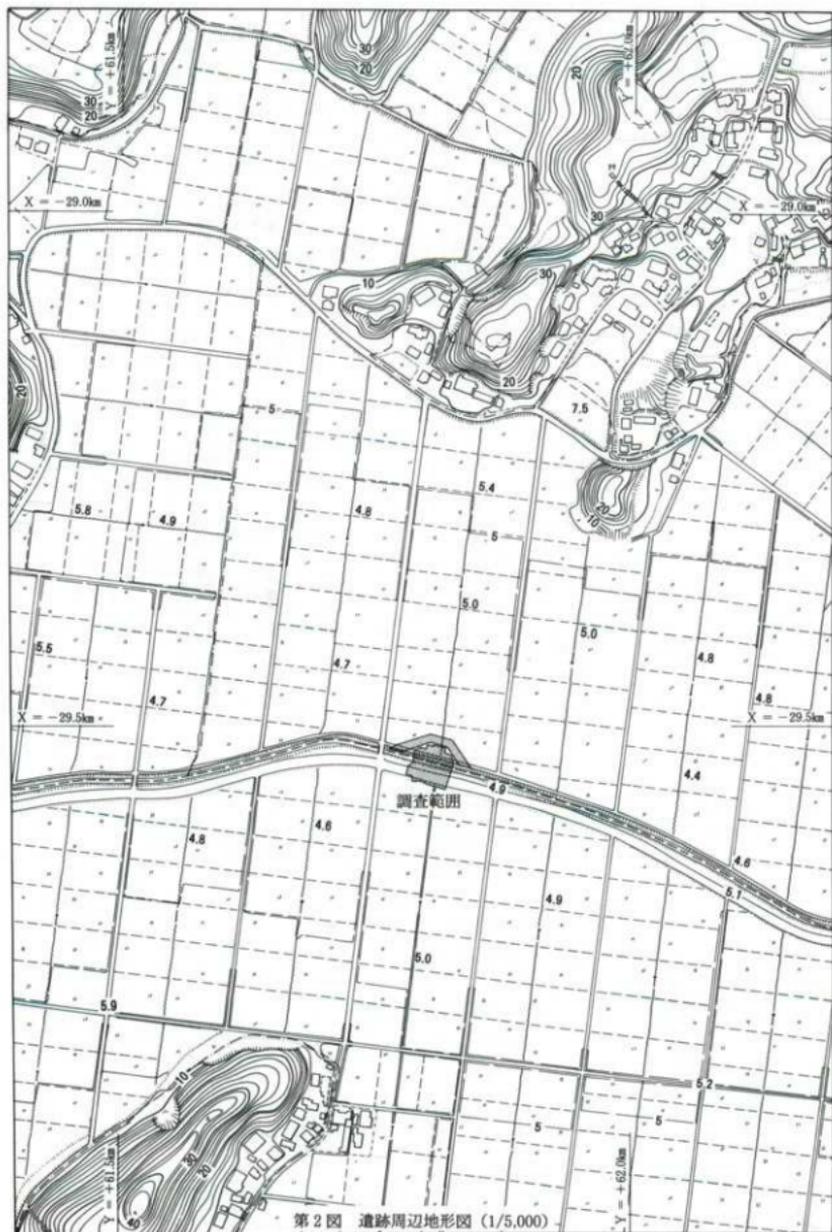
借当川を含む栗山川流域及び九十九里浜の堤間湿地では、独木舟が多数出土していることで著名であり、今回の調査地点の周辺でも、大部田泥炭遺跡（縄文時代後期～晩期）、公崎下泥炭遺跡（縄文時代後期）、矢摺泥炭遺跡（縄文時代後期）、南借当遺跡等、多数の出土例が知られている。また、台地上には飯高貝塚（縄文時代前期）、片子貝塚（縄文時代前期）、大掘遺跡（縄文時代中期～晩期）、八辺貝塚（縄文時代前期～中期）、宿井戸貝塚（縄文時代前期）、久方貝塚（縄文時代中期～晩期）、木積貝塚（縄文時代中期）、吉田遺跡（縄文時代早期～中期・晩期）等、縄文時代の遺跡及び、塚原古墳群、飯高城跡等、多くの遺跡が分布している。

片子貝塚等の縄文時代前期の貝塚は、標高30mを超える台地上に立地しており、当時の海面の上昇が想定される。事業地内で行われたボーリング調査の結果では、洪積層に達するのは地下30m～40mであることから、更新世に形成された深い谷に、完新世になり30m～40mの沖積作用による堆積土が形成されたことになる。また、地下約3mからは泥炭層が発達し、そのため、地盤が緩く、道路も陥没しやすい場所である。

第1表 周辺縄文時代主要遺跡・独木舟出土地一覧

番号	遺跡名	備考	番号	遺跡名	備考
1	沼田泥炭遺跡	中期～晩期	15	七升遺跡	独木舟
2	公崎下泥炭遺跡	後期、独木舟	16	埋地遺跡	独木舟
3	大部田泥炭遺跡	後期～晩期、独木舟	17	南部田遺跡	独木舟
4	矢摺泥炭遺跡	前期・後期、独木舟	18	栗山川独木舟出土地(1)	独木舟
5	南借当遺跡	前期～晩期、独木舟	19	片子貝塚	前期
6	中野独木舟出土地1	独木舟	20	飯高貝塚	前期
7	中野独木舟出土地2	独木舟	21	安久山遺跡	早期～中期
8	中野独木舟出土地3	独木舟	22	八辺貝塚	前期～中期
9	宮田下独木舟出土地	独木舟	23	木積貝塚	中期
10	宮田下泥炭遺跡	後期、独木舟	24	久方貝塚	中期～晩期
11	飯土井遺跡	独木舟	25	宿井戸貝塚	前期
12	新谷2番遺跡	独木舟	26	大掘遺跡	早期～晩期
13	新谷3番遺跡	独木舟	27	龍ヶ台遺跡	後期～晩期
14	広川遺跡	独木舟	28	吉田遺跡	早期～中期・晩期





第2図 遺跡周辺地形図 (1/5,000)

II 調査の概要

1 調査の方法

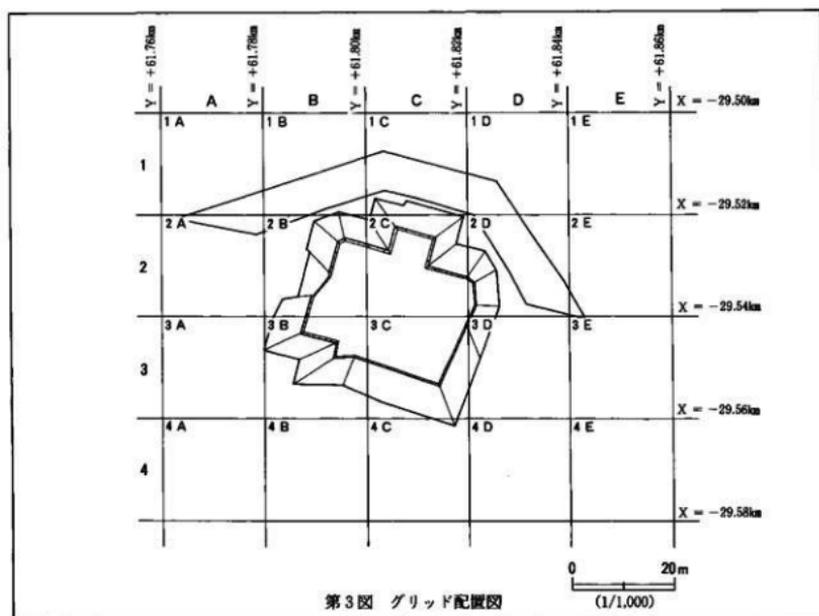
借当川流域の低湿地は、過去の発掘調査の経験から地盤が軟弱な点と湧水の激しい点が難点として挙げられている。そこで、今回の調査ではこれらを克服し、安全かつ効率的な作業が行えるように土砂の崩落と湧水対策に万全を期し、以下のとおり調査を実施した。

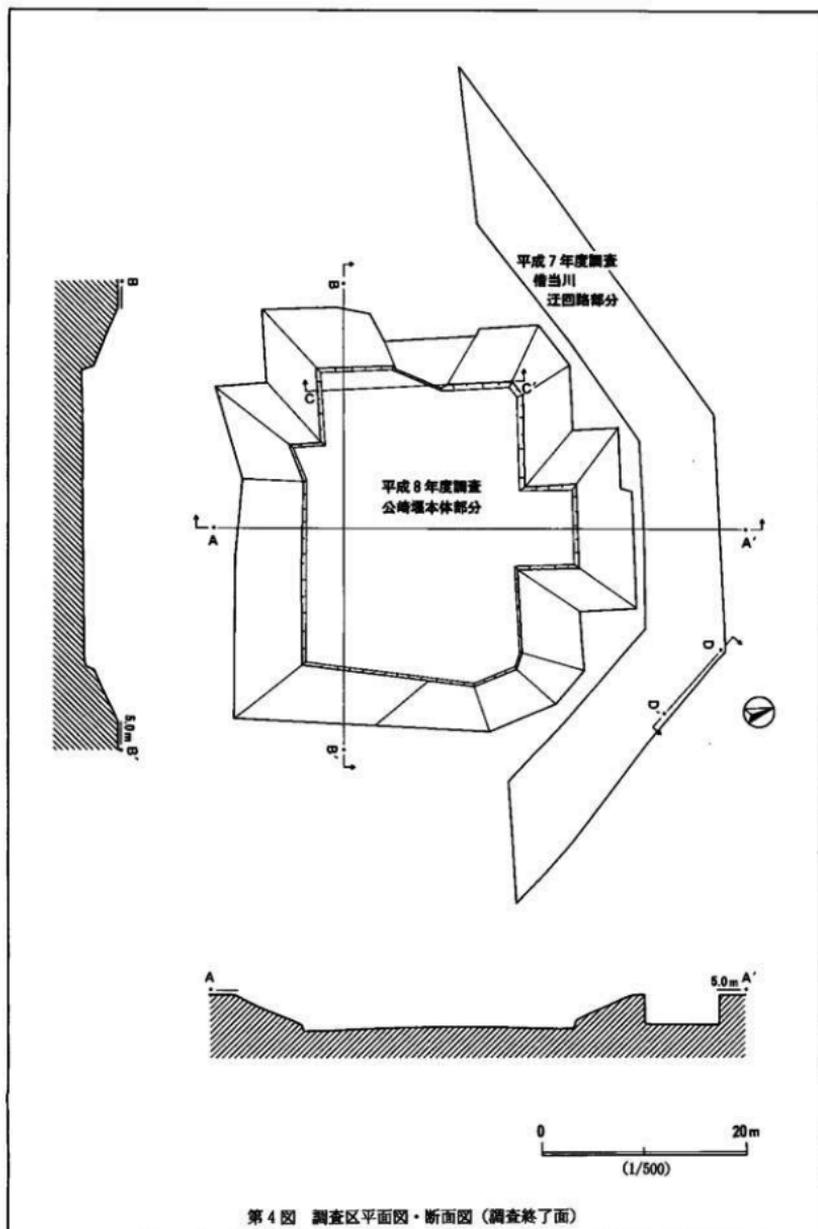
平成7年度に実施した借当川迂回路部分では、調査区の幅が7.5mと狭いため、事業者の協力を得て、工事に先行して鋼矢板を設置した後、調査を開始した。

現代の水田耕作土を重機を使用して除去し、調査区の周囲に排水溝を掘削した。排水溝の断面で上下の土層を観察しながら遺構・遺物の検出を層序を追って進めた。その結果、基本土層が把握され、遺物包含層を検出することができた。

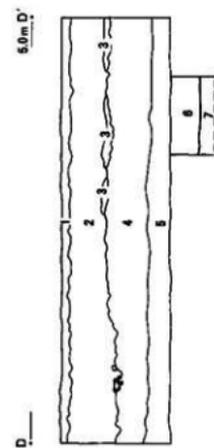
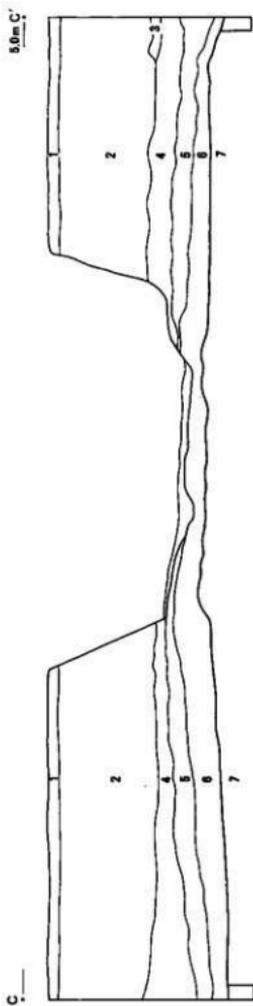
平成8年度に実施した公崎堰本体部分では、まず、迂回した借当川の河道に残った水を汲み出し、平成7年度の成果をふまえ、30度の勾配をつけたオープンカット工法で遺物包含層に達するまで重機を使用して掘削した。その後、排水溝を周囲に掘削し、土層を確認しながら層ごとに遺物の検出を行った。

両年度に渡り、共通した調査用のグリッドを設定し、これによって遺物の出土地点を記録した。公共座標第IX系 $X = -29.50\text{km}$ 、 $Y = +61.76\text{km}$ を原点に座標に沿って20mのグリッドを設定し、南に向かって1・



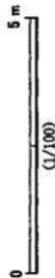


第4図 調査区平面図・断面図（調査終了面）



土層説明

- 1層：灰茶褐色粘質土（粘性が強く、水分の含量が多く見られる現代の水田耕作土。）
- 2層：灰褐色粘質土（かなり多くの植物繊維を含み、粘性が強い。若干、泥礫状の産人が埋められる。下層との間に不整合面が埋められ、水田耕作土と考えられる。）
- 3層：黒色泥炭（細かい植物繊維を多く含む。）
- 4層：茶褐色泥炭（多量のヒシの葉を含む。）
- 5層：灰茶褐色粘質土（植物繊維を多量に含む粘質土であり、ヒシの葉を少量含む。）
- 6層：緑灰色シルト（マコモ状の草を少量含む。）
- 7層：緑灰色砂質粘土（貝の殻片を含む。）



第5図 土層断面図

2・3・4、東に向かってA・B・C・D・Eと付し、これらを組み合わせて1A・2B・3Cのように呼称し、大グリッドとした。さらに大グリッドの中を2mのグリッドで100等分し、00～99まで付し、小グリッドとした。これによって、調査区内の地点を1A-00というように呼称することとし、出土遺物の平面的帰属を示すこととした。

遺跡の堆積土の基本層序は、7層に分層され、上層から1層：灰茶褐色粘質土（粘性が強く、鉄分の沈殿が多く見られる現代の水田耕作土。）、2層：灰黒色粘質土（かなり多くの植物繊維を含み、粘性が強い。若干、炭酸鉄の混入が認められる。下層との間に不整合面が認められ、水田耕作土と考えられる。）、3層：黒色泥炭（細かい植物繊維を多く含んでいる。）、4層：茶褐色泥炭（多量のヒシの実を含む）、5層：灰茶褐色粘質土（植物繊維を多量に含む粘質土であり、ヒシの実を少量含む。）、6層：緑灰色シルト（マコモ状の草を少量含む。）、7層：緑灰色砂質粘土（貝の碎片を含む。）である。

出土遺物は、基本的にこれらの層ごとに取り上げられ、グリッドと合わせて、1A-00・5層出土というように記録した。なお、必要に応じて、遺物の出土地点を公共座標と標高も合わせて3次元で記録している。

調査の結果、遺構は検出することができなかったが、3層・4層・5層・6層から、それぞれ遺物が検出されている。

当初、懸念された土砂崩落、湧水は、鋼矢板及び掘削方法、電動水中ポンプによる強制排水が功を奏して、十分対処でき、良好な状態で発掘調査を行うことができた。

遺物包含層の調査ということで、出土層位と土質及び包含された自然遺物に注意しながら調査を進め、遺跡の時期と環境の変遷が解明できるように努めた。

2 出土遺物

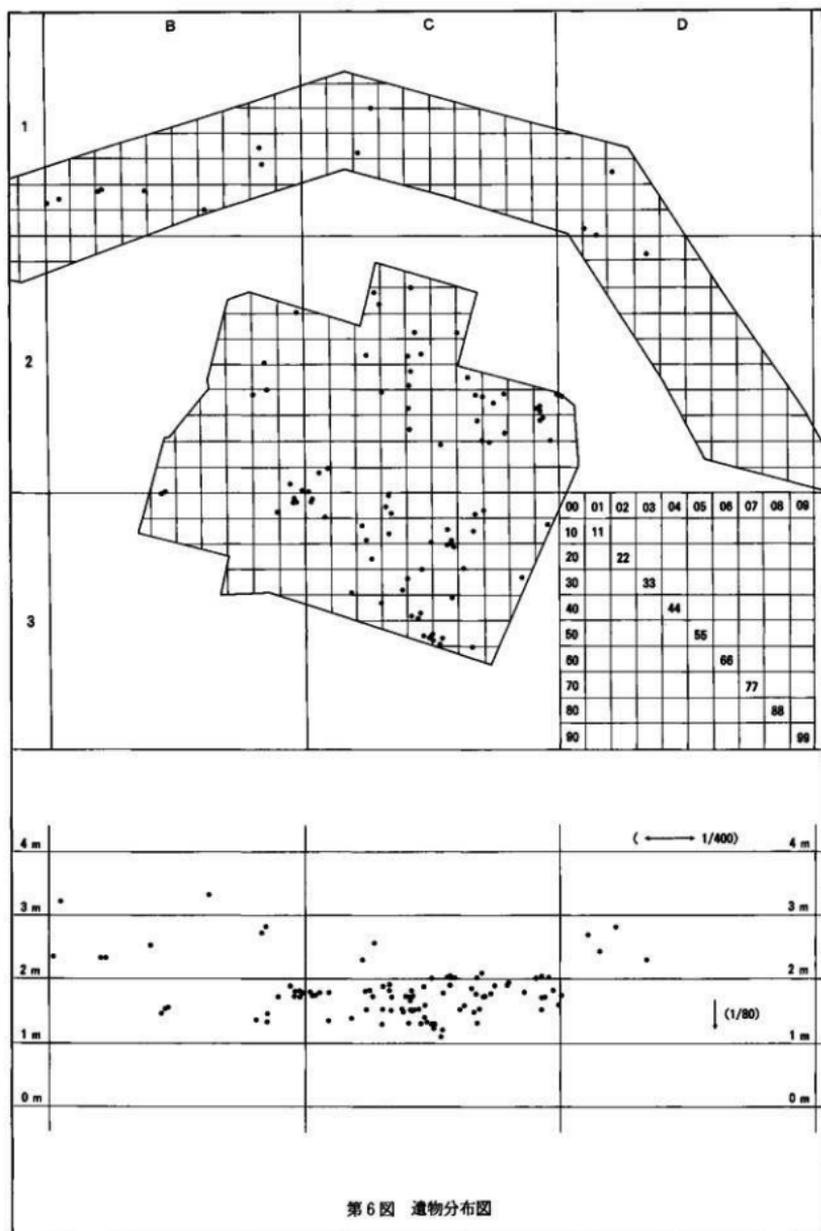
3層～6層にかけて遺物が出土している。土器が主体であり、全体的に還元作用を受けており、遺存状態は良好である。炭化物が付着したままのものもあり、実測可能な95点を図示した。以下に、一覧表として列記する。なお、口径、底径、器高の計測値の単位は、cmであり、復元長は（ ）で書いている。

ここでは、加曾利B式の粗製土器に関しては、型式細分していない。また、番号16～27の土器群は、概ね加曾利B2式であるが、一部加曾利B3式を含んでいるものと理解している。

層位ごとにみていくと、3層では平安時代から古墳時代前期、4層では縄文時代晩期から後期、5層では縄文時代後期、6層では縄文時代後期から中期の遺物が出土している。中でも、5層からの遺物量が最も多く、しかも、縄文時代後期の遺物のみが出土している。これらを踏まえると本遺跡が攪乱を受けていない良好な遺物包含層を保存していたとみてよからう。

3層出土遺物：1の須恵器杯は、底部に回転糸切痕を残し、周皿及び体部下端にヘラケズリを施している。市原市石川窯跡の時期のものと考えられる。2の甕は小型で、薄手のシャープな作りをしている。口縁部外面にスズ状の炭化物が付着している。

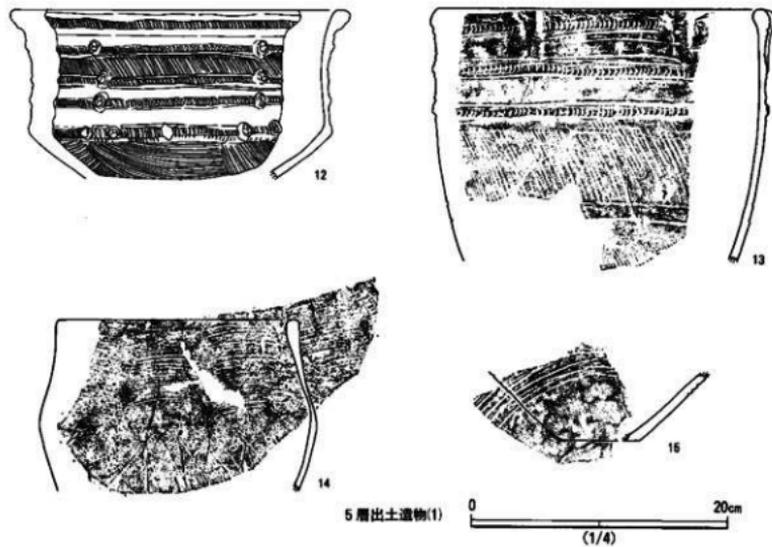
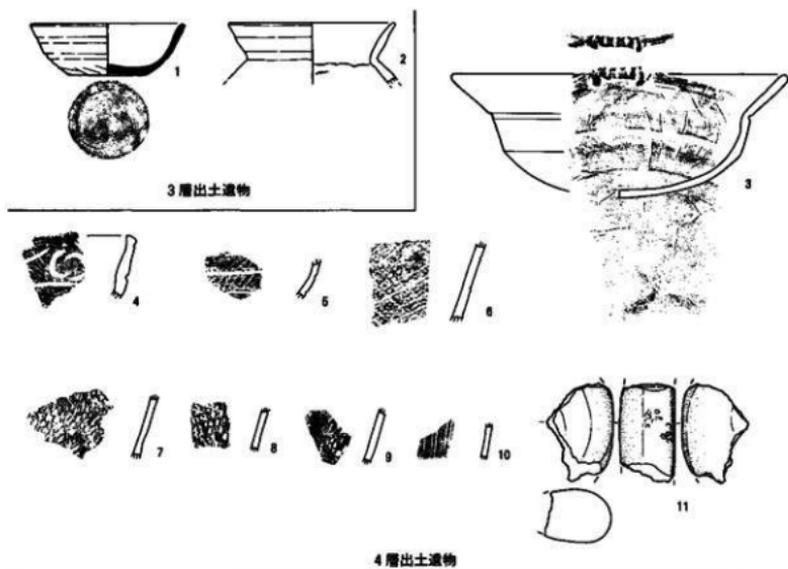
4層出土遺物：3は加曾利B3式の鉢であり、丸底を呈し、体部と口縁部の境に沈線、体部に上半と下半を分ける稜がみられる。体部外面上半から内面にかけてミガキ、体部外面下半はケズリによって調整されている。4は安行3a式の鉢であり、沈線文区画に縄文が施されている。5は加曾利B1式の鉢であり、内面はミガキが施されている。6～10は加曾利B式の粗製の深鉢である。



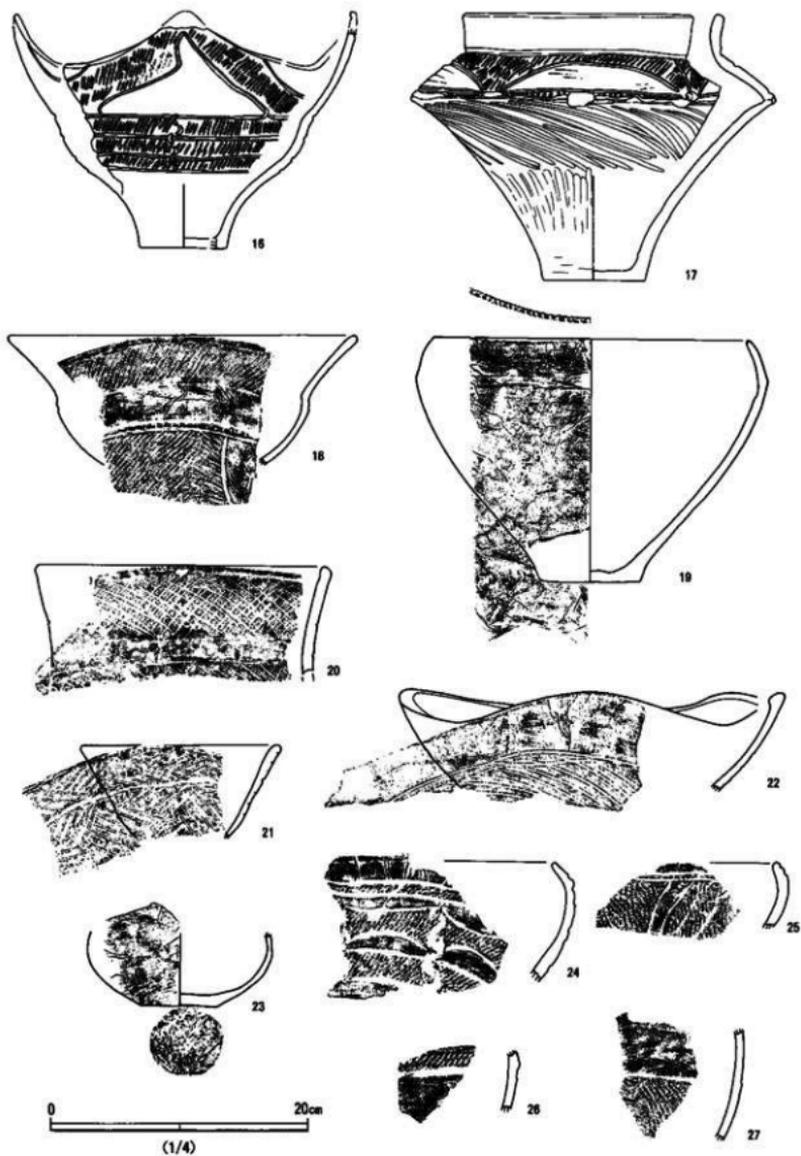
第 6 図 遺物分布図

5層出土遺物：12は安行2式の台付鉢である。施文は条線→区画沈線→キザミの順で、隆線はケズリ出しと思われる。貼付円形突起には竹管を用いた刺突がみられ、無文部はミガキが顕著である。内面も丁寧なミガキが施されている。14は粗製の深鉢であり、外面に炭化物が多量に付着している。15は条線及びミガキが施され、内面には炭化物が付着している。16は加曾利B2式の鉢であり、文様は基本的に磨消縄文により構成されている。口縁付近には大振りの三叉状の単位文を配し、以下に三段の縄文帯を有し、短い弧線による区切り文を持つ。無文部及び内面のミガキは丁寧である。内面の口縁付近には一条の沈線を有する。下部には炭化物が付着している。17は、算盤玉状に肩が張る加曾利B2式の深鉢である。主文様はおそらく5単位であり、縦の沈線が入る肩部分には竹管により刺突が施されている。施文は、単節LR縄文、沈線は引き直しを行っている。施文順序ははっきりしないが、縄文の施文は区画内に収まるよう、方向を変えて施しており、おそらく充填手法であろう。無文部は比較的丁寧なミガキが施されている。屈曲部にも単節LR縄文を施している。屈曲部より下は、器面を巡るように斜沈線を施す。上方向から引かれているようだが、土器を上下逆に置いて、下から引っ張るように施文したと思われる。胴下半部は縦方向のミガキが顕著であり、斜沈線の下端を消して文様の範囲を意識しているようである。内面下半には、多量の炭化物が付着している。19は、口唇部にキザミを有し、口縁部外面から内面及び底部外面から体部下端にかけてミガキ、体部外面にケズリが施されている。体部内面に穿孔を途中で止めたと思われる窪みがある。23は黒色で内外面とも細かい単位の丁寧なミガキが施されている。底部は不明瞭な圧痕が認められる。外面体部下端に樹脂状物質の付着がみられる。28～86（35を除く）は加曾利B式の粗製土器である。28及び30には、口縁部外面付近に多量の炭化物が付着している。36は底部外面縁辺のかがが磨耗している。37は外面に火を受けたと思われる赤褐色の変色部分が認められ、内面には炭化物が付着している。66・69には外面に炭化物が付着している。85には内面に炭化物が付着している。

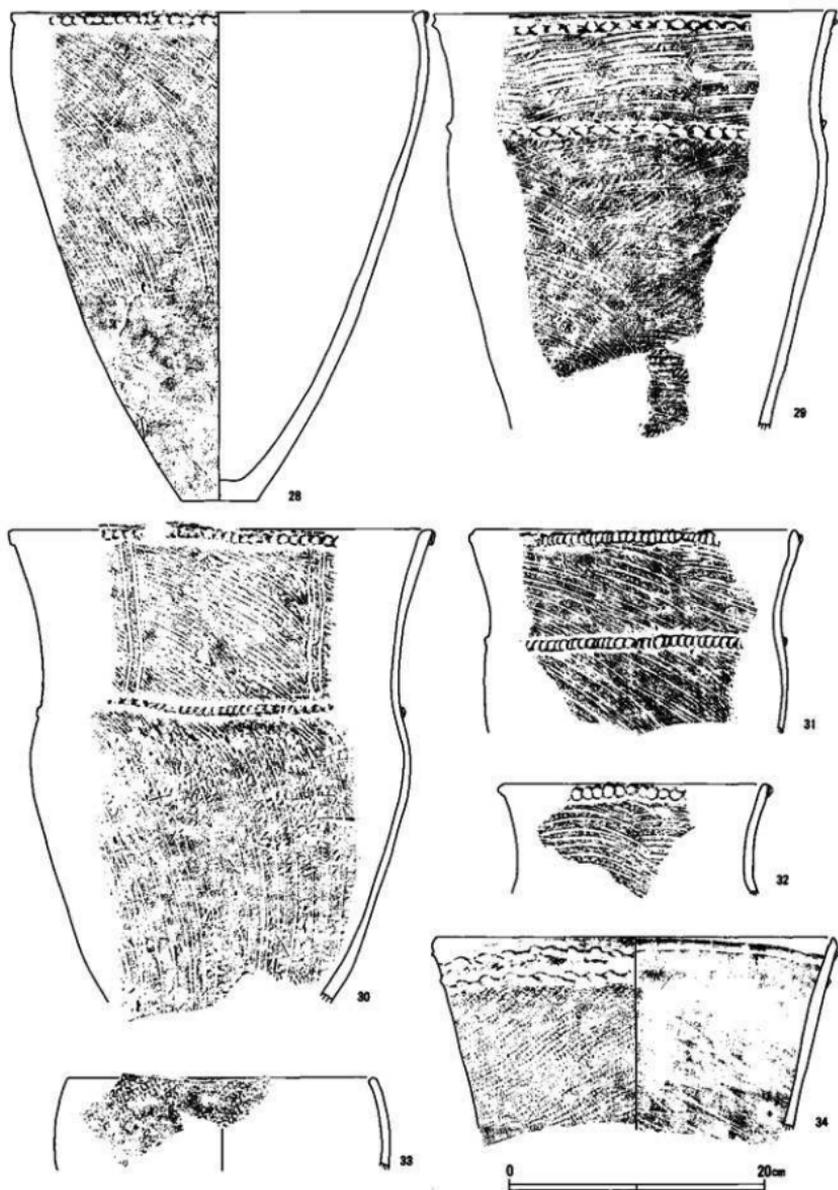
6層出土遺物：91は称名寺1式土器であり、沈線区画に磨消縄文を施す。92・93は加曾利EⅢ式土器である。94は口縁部の破片であり、胎土には金雲母を含むが、加曾利EⅡ式土器である。95は、凹石・磨石・敲石と多用途に使用された石器である。長さ12.6cm、幅7.0cm、厚さ4.2cmを測り、両面に窪み部を持ち、磨痕も顕著である。周縁部に敲打痕も認められる。



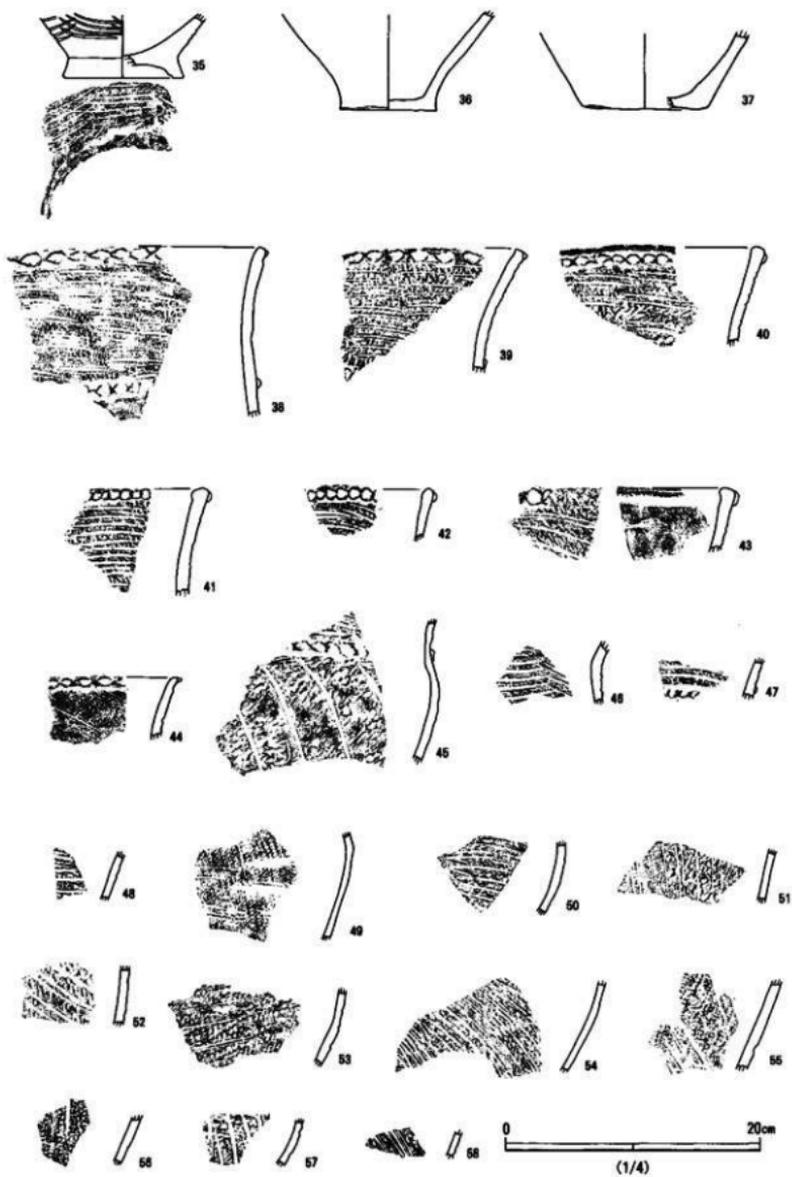
第7図 3層・4層・5層(1)出土遺物実測図



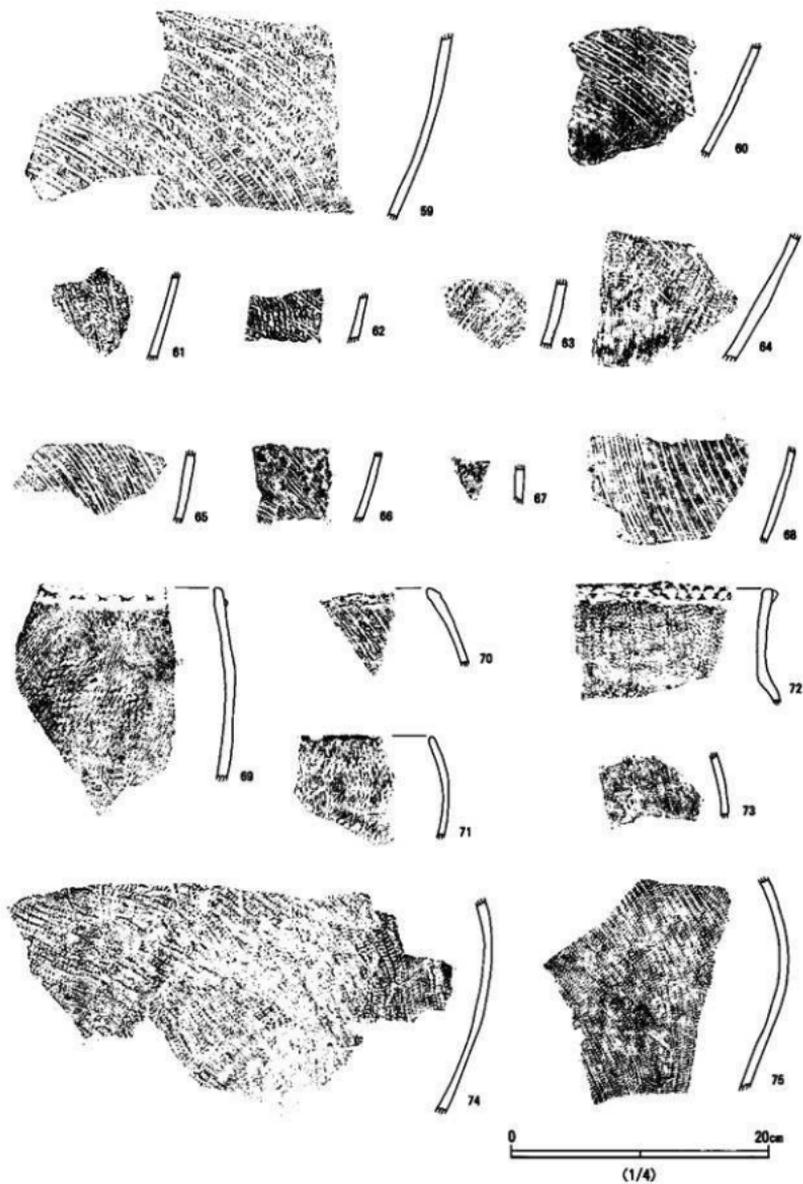
第8图 5层出土遗物(2)实测图



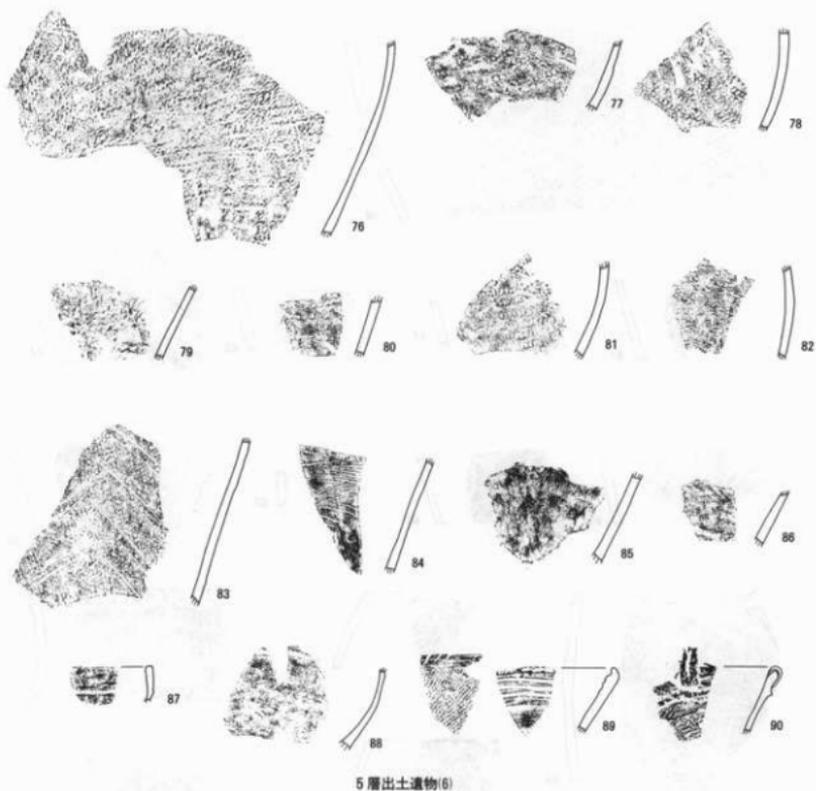
第9图 5层出土遗物(3)实测图



第10图 5层出土遺物(4)実測図



第11图 5層出土遺物(5)実測図



第12図 5層(6)・6層出土遺物実測図

第2表 出土遺物一覽(1)

番号	グリッド	層位	時期	型式	器形	口径	底径	器高	備考
1	2C-22	3	平安	須恵器	坏	(12.0)	6.0	4.1	9C.前半
2	2C-90	3	古墳前期	土師器	壘	(13.0)	-	-	
3	2C-69	4	縄文後期	加曾利B3	鉢	26.2	-	9.8	
4	一括	4	縄文晩期	安行3a	鉢	-	-	-	
5	一括	4	縄文後期	加曾利B1	鉢	-	-	-	
6	一括	4	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
7	一括	4	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
8	一括	4	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
9	一括	4	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
10	一括	4	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
11	一括	4			石皿				安山岩
12	2C-79	5	縄文後期	安行2	台付鉢	(26.8)	-	-	
13	1D-91	5	縄文後期	安行2	深鉢	(26.4)	-	-	
14	1D-72	5	縄文後期	安行2	深鉢	(18.8)	-	-	
15	1D-一括	5	縄文後期	安行2	鉢	-	(6.4)	-	
16	2C-69/79	5	縄文後期	加曾利B2	鉢	(27.0)	(6.8)	(19.0)	
17	2D-60	5	縄文後期	加曾利B2	深鉢	(20.8)	(8.0)	21.4	胴径(30.8)
18	2B-99	5	縄文後期	加曾利B2	鉢	(27.2)	-	-	胴径(27.8)
19	1B-一括	5	縄文後期	加曾利B2	鉢	(24.6)	7.8	19.0	
20	3C-44	5	縄文後期	加曾利B2	深鉢	(23.2)	-	-	
21	3C-44	5	縄文後期	加曾利B2	鉢	(15.8)	-	-	
22	2C-64/74	5	縄文後期	加曾利B2	浅鉢	(30.4)	-	-	
23	2C-63	5	縄文後期	加曾利B2	鉢	-	6.0	-	
24	1B-80	5	縄文後期	加曾利B2	鉢	-	-	-	
25	3C-31	5	縄文後期	加曾利B2	鉢	-	-	-	
26	3C-45	5	縄文後期	加曾利B2	鉢	-	-	-	
27	3C-00	5	縄文後期	加曾利B2	鉢	-	-	-	
28	1B-68	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	(32.8)	6.0	38.4	粗製
29	3C-03	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	(32.0)	-	-	粗製
30	3C-14*	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	33.5	-	-	粗製
31	3C-12	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	(25.4)	-	-	粗製
32	3C-06	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	(20.8)	-	-	粗製
33	3B-08/09	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	(24.0)	-	-	粗製
34	1B-82	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	(31.8)	-	-	粗製
35	2C-44/50	5	縄文後期	加曾利B	台付鉢	-	(9.4)	-	
36	2C-85	5	縄文後期			-	7.6	-	
37	1C-一括	5	縄文後期			-	(9.7)	-	
38	1B-83	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
39	3C-15	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
40	2C-90	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
41	3C-00	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
42	3C-06	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
43	2C-67	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
44	1B-68	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
45	2B-29	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
46	3C-06	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
47	3C-34	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
48	3C-25	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
49	1D-一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
50	3C-06	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製

第2表 出土遺物一覽(2)

番号	グリッド	層位	時期	型式	器形	口径	底径	器高	備考
51	3C-33	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
52	2C-76	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
53	2C-36	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
54	3C-03/13	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
55	一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
56	一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
57	一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
58	2C-66* ¹	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
59	1D-一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
60	2C-56	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
61	一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
62	一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
63	3C-42	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
64	3C-12	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
65	2C-87	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
66	1B-80	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
67	1B-78	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
68	2D-60	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
69	2C-24	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
70	1B-一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
71	3C-19	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
72	2C-69	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
73	3C-33	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
74	2B-94* ²	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
75	2C-54	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
76	1C-62	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
77	2C-90* ⁴	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
78	2B-99	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
79	一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
80	1B-78	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
81	3B-09	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
82	2C-34	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
83	1D-91	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
84	1C-42	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	粗製
85	一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	
86	一括	5	縄文後期	加曾利B	深鉢	-	-	-	
87	一括	5	縄文後期	加曾利B	鉢	-	-	-	
88	一括	5	縄文後期	加曾利B	鉢	-	-	-	
89	3C-16	5	縄文後期	加曾利B1	鉢	-	-	-	
90	3C-03	5	縄文後期	加曾利B1	鉢	-	-	-	
91	3C-00	6	縄文後期	称名寺1	深鉢	-	-	-	
92	2C-66	6	縄文中期	加曾利EⅢ	深鉢	-	-	-	
93	2B-68	6	縄文中期	加曾利EⅢ	深鉢	-	-	-	
94	2B-68	6	縄文中期	加曾利EⅡ	深鉢	-	-	-	胎土金雲母含む
95	2B-48	6			凹石				安山岩

*¹ 3C-15/22/25/34/66と接合している。*² 2C-67/79と接合している。*³ 3B-04と接合している。*⁴ 3B-09と接合している。

Ⅲ ま と め

1 縄文土器

今回の調査で出土した縄文土器を層ごとにまとめると、以下のようになる。

6層：加曾利EⅡ式・EⅢ式、称名寺1式

5層：加曾利B1式～B3式、安行2式

4層：加曾利B1式～B3式、安行3a式

5層の主体をなすのは加曾利B2式であり、出土量も最も多い。4層は出土量が激減するが、晩期の土器を含んでいる。したがって、6層は中期後半～後期初頭、5層は後期中葉～後期後葉、4層は後期中葉～晩期前葉の遺物相を示している。5層と4層の遺物相がほぼ同じなのは、継続した自然環境のもとで堆積したために下層の遺物が混入したものだと思われる。一方、6層と5層の間には土器編年上の断絶があり、堆積土の土質も全く異なっているため、自然環境の変化が予想される。

低湿地から出土する土器は、台地から出土する土器に比べて、精製土器にみられるミガキの調整は、細かい単位で丁寧に行われていることが明瞭に観察できる。また、主に粗製土器には炭化物の付着がよく認められ、吹きこぼれたり、焦げ付いたりした内容物が炭化してそのまま残っている状態のものが多数あり、分析如何では内容物の特定も可能かもしれない。

2 遺跡環境の変遷

遺跡の堆積土の変化と出土遺物から、地形の変遷を考察し、本遺跡の古環境を復元してみたい。

7層の緑灰色砂質粘土は、貝殻を含む海成堆積層である。遺物は検出されていないが、6層の遺物からみて、縄文時代中期以前の堆積層であることが予想される。当然、海水の影響を強く受けた縄文時代前期を中心とした縄文海進の時期の堆積層であろう。

6層の緑灰色シルトは、無機質でマコモ状の草を少量含むことから川底の堆積土ないし、河川の氾濫土である可能性が高いと思われる。この層は借当川流域で調査された矢摺泥炭遺跡における3層¹⁾、千葉県八日市場市借当川流域発掘調査報告書における7層²⁾、宮田下泥炭遺跡におけるIV層³⁾と対応するものと思われ、矢摺泥炭遺跡では、この層を流水の流れ込みのある池沼のような止水域で堆積した堆積物であるとしており、注2では流水の影響の強い環境（例えば川の中など）下にあったとしている。当時の環境を矢摺泥炭遺跡では、海水の影響を僅かながら受けた塩性池沼、注2ではガマ属が生えるような浅い水域が存在したと考えている。本遺跡では、縄文時代中期から後期初頭の遺物が検出されていることから、当時、海退が進み、淡水の流れ込みもみられるようになったが、まだ植生が貧弱な段階であったと推定する。

5層の灰茶褐色粘質土は、有機質で植物繊維を多量に含み、ヒシの実を少量含む。縄文時代後期の土器を包含し、この頃になると海水の影響はなくなり、淡水化したものと思われる。4層と比べるとヨシ状の草が多く、ヒシの実が少ないことから沼の縁辺部から湿地にかかるような場所であったと考える。

4層の茶褐色泥炭は、非常に純度の高いヒシの実のみを含む有機質土である。縄文時代後期から晩期に

かけての遺物を包含し、ヒシは浮葉植物であり、群落して生息することから、当時の環境が沼のある程度水深のある場所だったことが推定される。

5層、4層は矢摺泥炭遺跡の2層、注2の6層、5層・4層に対応するものと思われ、当時の環境も同様な完全に淡水化した池沼の環境と推定されている。

3層の黒色泥炭は細かい植物繊維を多く含むが、4層にみられるようなヒシの実は全く入っていない。古墳時代から平安時代の遺物を包含し、部分的にしか存在しないことから、水田耕作等により削平・攪乱を受けなかった残りの部分だと思われる。湿地状態での堆積土であろう。

2層は水田耕作により土壌化している。平安時代以降、現代の水田が造成される以前の水田土壌であるが、開田された時期は不明である。

1層は現代の水田土壌である。

注2において推定された環境の変化は、借当川流域の広範囲で起こったものと考え、との指摘があり、これは本遺跡でも概ね同様の環境の変化をたどることができた。また、年代的な検討を行う必要性を説いていたが、絶対年代について、今回は科学的な測定はしなかったが、土器型式によって各層の時期は把握することができた。必要ならば、今回出土した土器には多量の炭化物が付着しており、 C^{14} 年代測定も可能である。

本遺跡周辺の環境は、縄文時代前期には海底、縄文時代中期から後期初頭にかけて潟湖化し、それに流れ込む淡水の河川による沖積作用が始まる。縄文時代後期になると完全に淡水化し、湖沼的環境となり縄文時代晩期へ至る。古墳時代には湿地となり、平安時代以降のある時点から水田化して、現在に至っていることが今回の調査によって明らかにされた。

これらの環境の変遷を考慮すると、借当川流域で検出される独木舟は、出土する層位によって用途は異なってくるものと考えられる。海で使用されたものなのか、沼で使用されたものなのか、湿地ないし湿田のようなところで使用されたものなのか、検出された土層を良く観察し判断すべきであろう。

注1 財団法人東総文化財センター 1995 『千葉県八日市場市矢摺泥炭遺跡Ⅰ』

2 借当川遺跡調査会 1987 『千葉県八日市場市借当川流域発掘調査報告書』

3 借当川遺跡調査会 1985 『千葉県八日市場市宮田下泥炭遺跡—独木舟の調査—』



借当川沼田泥炭遺跡



平成7年度
調査前



平成7年度
調査状況



平成7年度
調査状況



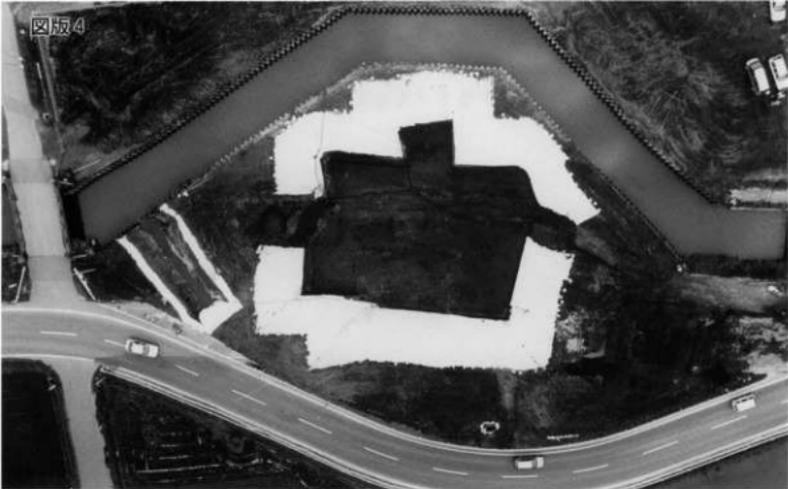
平成7年度
調査状況



平成7年度
土層断面



平成8年度
調査前



平成8年度
調査状況（上から）



平成8年度
調査状況（東から）



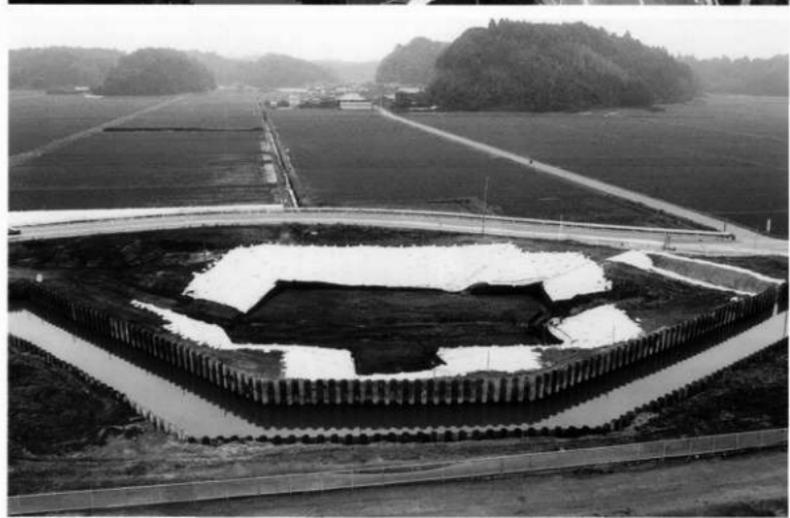
平成8年度
調査状況（南東から）



平成 8 年度
調査状況（上流から）



平成 8 年度
調査状況（下流から）



平成 8 年度
調査状況（北から）



平成8年度
土層断面



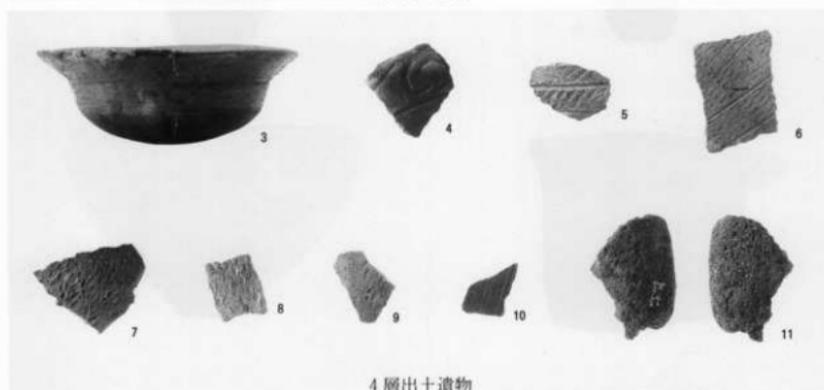
平成8年度
遺物出土状況



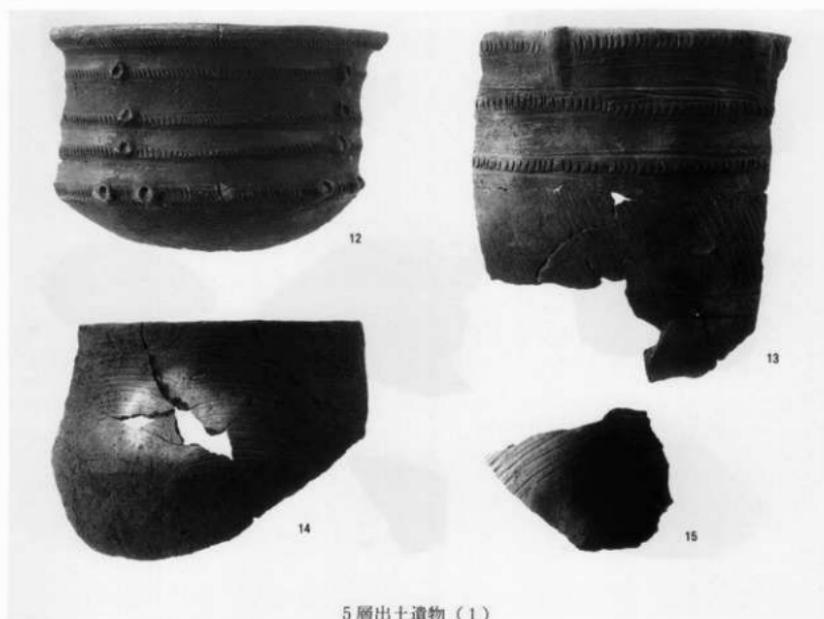
平成8年度
調査風景



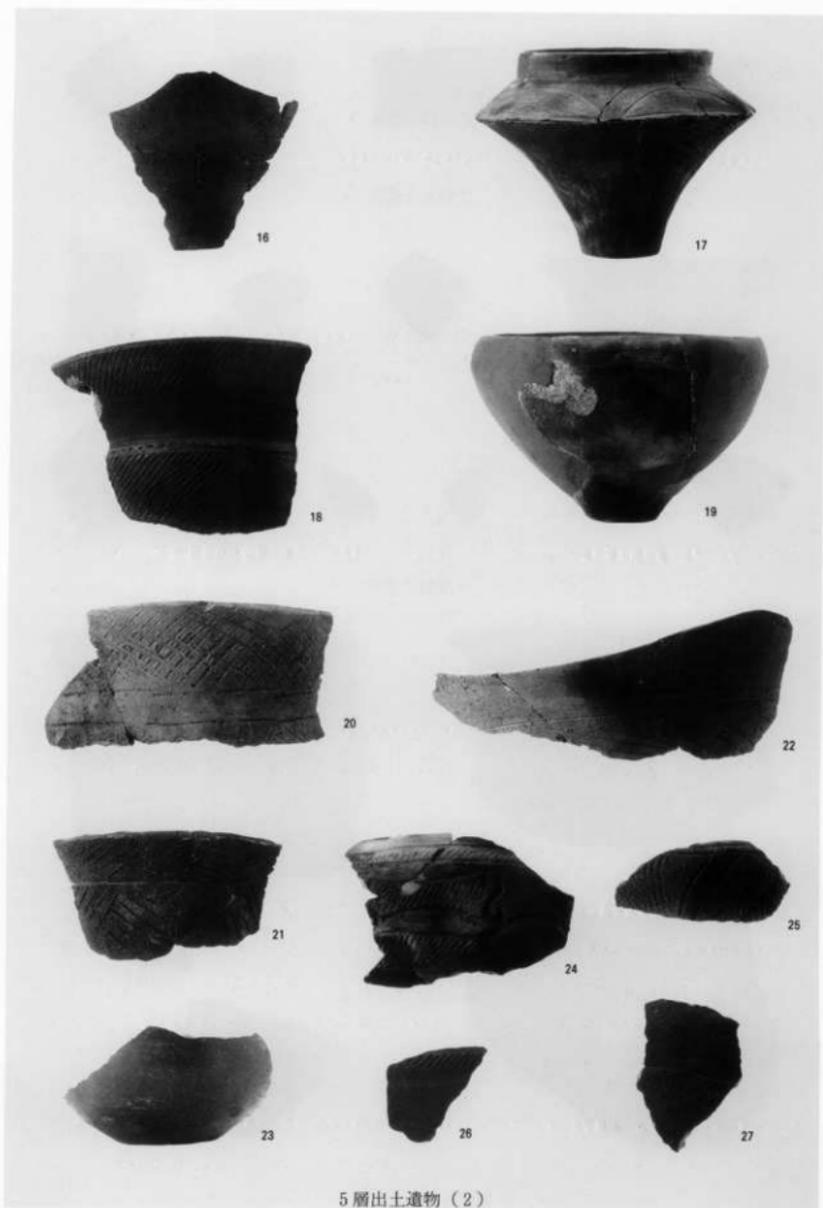
3層出土遺物



4層出土遺物



5層出土遺物(1)



5層出土遺物(2)



28



29



30



31



32

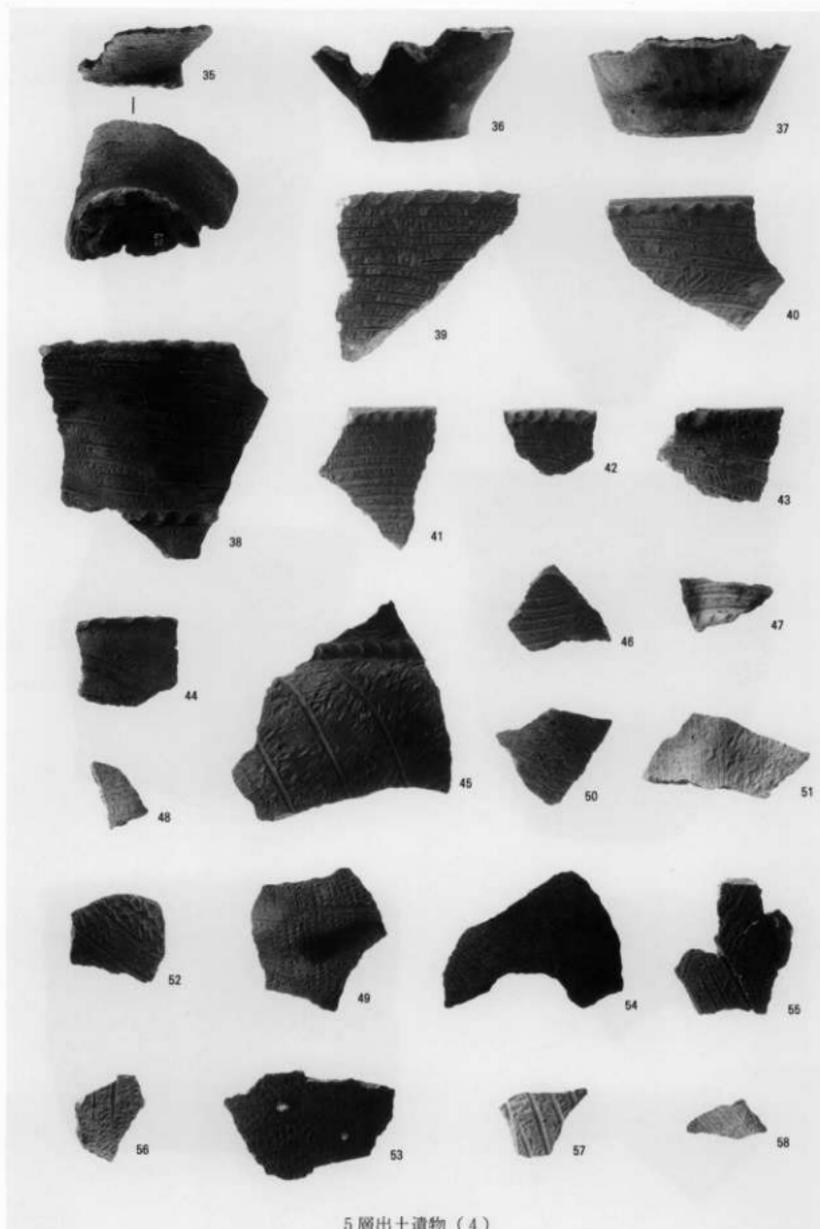


33

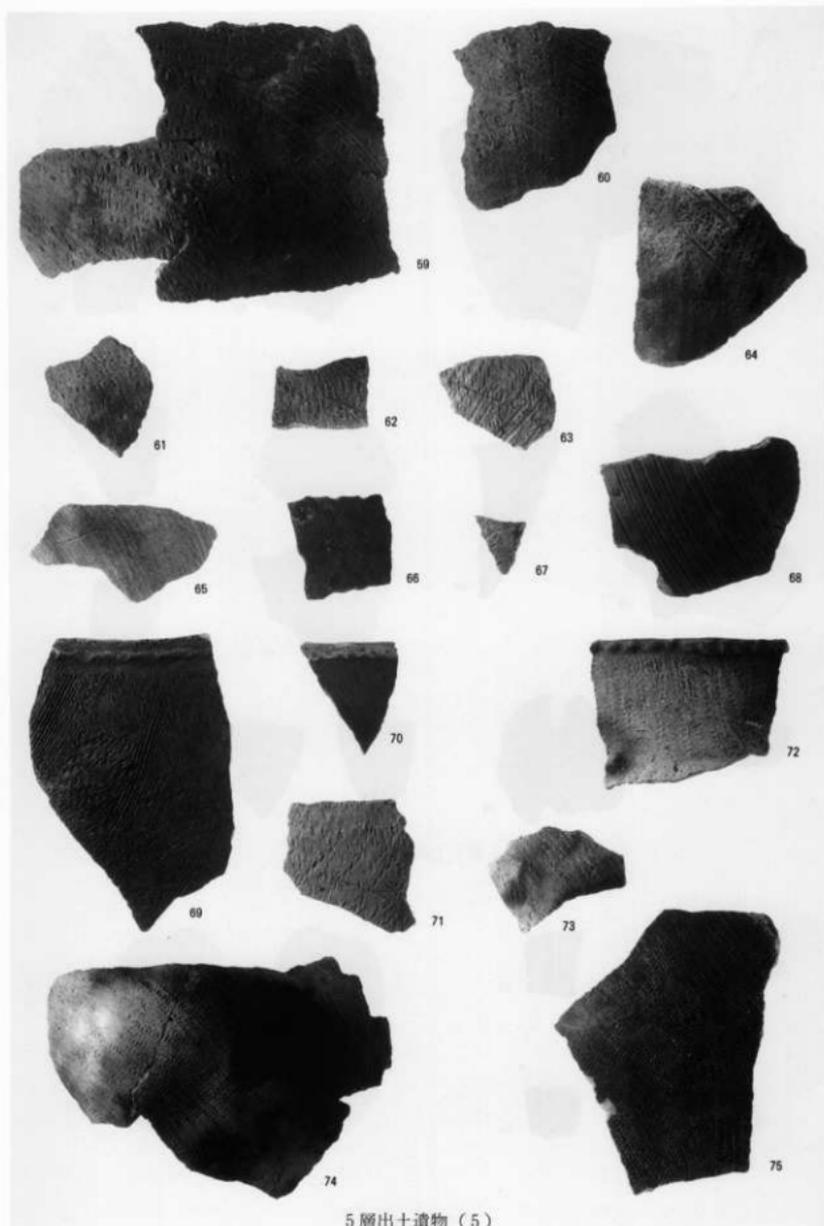


34

5層出土遺物(3)



5層出土遺物(4)



5層出土遺物(5)



5層出土遺物(6)



6層出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ようかいちほしかりあてがわぬまたでいたんいせき							
書名	八日市場市借当川沼田泥炭遺跡							
副書名	公崎塚埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第307集							
編著者名	高梨俊夫							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL 043-422-8811							
発行年月日	西暦1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		町村	遺跡番号					
かりあてがわぬまた 借当川沼田 泥炭遺跡	ちほけんようかいちほし 千葉県八日市場市 かたこふる沼田139 ほか	214	007	35度 43分 55秒	140度 31分 00秒	19951101～ 19951130 19960501～ 19960628	656 1,200	河川改良事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
借当川沼田 泥炭遺跡	低湿地	縄文時代 古墳時代 平安時代	遺物包含層		縄文土器 土師器 須恵器		縄文土器（中期～晩期）が層位的に検出された。	

千葉県文化財センター調査報告第307集

八日市場市借当川沼田泥炭遺跡

—公崎塚埋蔵文化財調査報告書—

平成9年3月31日発行

編 集	財団法人	千葉県文化財センター
発 行	千 葉 県 土 木 部	千葉県中央区市場町1-1
	財団法人	千葉県文化財センター
		四街道市鹿渡809-2
印 刷	株式会社	正文社
		千葉県中央区都町2-5-5
